

技能五輪国際大会について

1 大会概要

技能五輪国際大会（WSC：WorldSkills Competition）は、国際的に技能を競うことにより、参加国・地域の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、青年技能労働者（満 22 歳以下）の国際交流と親善を目的とした大会で、1950（昭和 25）年に 2 カ国（スペイン、ポルトガル）で始まった。1971（昭和 46）年まで毎年開催されていたが、それ以後は原則 2 年ごとに開催されている。

1966（昭和 41）年には、参加国の代表により技能五輪国際組織委員会（WSI：World Skills International）※が組織され、大会が運営されている。

我が国は、1962（昭和 37）年にスペインで開催された第 11 回大会（ヒホン大会）から参加している。1970（昭和 45）年には東京で第 19 回大会、1985（昭和 60）年には大阪で第 28 回大会、2007（平成 19）年には静岡で第 39 回大会が開催された。

なお、2017（平成 29）年には、アラブ首長国連邦（アブダビ）において開催される予定である。

※ WSI について

職業訓練の促進、技能に関する制度の情報交換の促進及び青年労働者の国際的相互理解の促進を目的に結成された非政府組織。加盟国の代表によって構成され、日本からは中央職業能力開発協会が代表として加盟している。

2 参加資格

出場する競技大会の開催年に原則 22 歳以下である者

3 開催状況（最近 5 回）

開催年	2007 (H19)	2009 (H21)	2011 (H23)	2013 (H25)	2015 (H27)
開催国	第39回 日本 (静岡)	第40回 カナダ (カルガリー)	第41回 イギリス (ロンドン)	第42回 ドイツ (ライプツヒ)	第43回 ブラジル (サンパウロ)
参加国・地域数	46	46	48	52	59
競技職種数	47	45	46	46	50
参加選手数	812 (51)	850 (45)	925 (44)	986 (45)	1,189 (45)

注 ()内は、日本の参加選手数